

鐵工組合 福田理事長の辯明書を讀んで  
再び會員諸君に告ぐ

161  
1910.9.27  
約の何物たるかを解せざる從事は其約束を破りし爲め頗末を「萬天下の労働者諸君に告ぐ」  
並に鐵工組合安治川支部が本組合を罵倒中傷せる文書を撤布せるに對し。本組合は直に交渉を開始し。  
云ふ迄もなく既辯明書たるや、本組合の鐵工組合に対する公開狀である。然るに今回鐵工組合理事長福田龍雄君は、其れに對する、辯明書を書きものを發表して居るが其内容と云ひ其論旨云云ひ、殆ど四難列、一讀以て噴飯せざるを得ない。吾人大阪機械労働組合は労働解放運動の爲め東奔西走、席の温まるを知らざる事程に日々活動して居るが時又一、二、時開位の僚僚のあらざるなきも、彼が如き三文の價値もない書に對し應酬する程無恥な時を待ち合さない、故に本組合はこれを厭棄する。何んこれが

(一) 辯明書の内容は謬偽と推論と獨斷とを以て満たされ、事實と理論を無視したもので、ある。されば其れに對する、辯明書は當然鐵工組合の名を以てなされるべきであつてあるのに彼は單性にも一理事長個人の名に依つてなされて居る。既に辯の辯明書にも記せる如く吾人は、不義背德、無責任、極まる、鐵工組合の幹部個人とは交渉する事の全く無駄なる事を知る。

(二) 既に本組合の發表せる辯明書は本組合の名を以て鐵工組合に向つて發したる公開狀で、其番大、及び無政府主義者以外の殆ど全部の者より、特に労働者階級よりは非常の尊敬を以て迎へられる、鈴木文治、賀川豊造、の両氏に向つて努力、ローカルなど中傷し、罵倒し、得々として居る。しかも、かく云ふ彼は無政府主義者か、費本家の番大か、其の何れかに屬する者で有らう。でなければ彼の醜惡なる品行が友愛會を退會するの餘義なくせしめたる自己の非を悟らず反つて友愛會を恨み讒言中傷するものである。左様に人格の劣等なる者を相手にする事の尙更馬鹿らしさを知らるからである。

(三) 殊に福田君は、自らが云へる如く昔つて非常に恩義を受けた人。現代の資本家、並に重ねて云ふ、以上の理由に依り大阪機械労働組合は三文の價値もなき辯明書を厭棄する、されば吾人は歎息せしむる如く本組合本部は立會演説など直接交渉はりて何時名を以てするなるべ、畢竟に聲に聲明せらる如く本組合本部は立會演説など直接交渉はりて何時

九月十八日